

令和6年第9回 吉田町教育委員会

-
- 1 開催期日 令和6年8月28日(水)
開会 午後 1時30分
閉会 午後 4時28分
- 2 場 所 吉田町役場 5階会議室2
- 3 出席委員 塚本 成男 北澤 雅恵
増田 真也 中村 成宏
- 4 議場に出席した者の職氏名 教 育 長 山田 泰巳
学校教育課長 糸田 真男 生涯学習課長 山脇 一浩
学校教育課長補佐 岸端 準成 主席指導主事 水嶋 浩之
指 導 主 事 田中 久美 指 導 主 事 浅井 健
学校教育課統括 川本 貴浩
- 5 傍聴人数 0人

次 第 (会議録概要)

-
- 1 開 会
- 2 教育長の報告 資料No.1
- (1) 報告事項 8月の教育委員会の行事
- (2) 町内教職員の状況 男性育休取得
- (3) その他 中体連全国・東海大会出場者表敬訪問 ほか
- 3 会議録署名委員の指名 中村委員
- 4 議 事
- (1) 報告事項
- | | | |
|---------------------|-------|--|
| ア 生徒指導について | 【非公開】 | 資料No.2 |
| イ 令和6年度就学援助費の認定について | 【非公開】 | 資料No.2 |
| ウ 児童生徒の区域外就学について | 【非公開】 | 資料No.2 |

エ 令和6年度全国学力・学習状況調査について 資料No.3

(委員からの質疑・意見)

- ・ 質問番号 47 と 29 は内容的には同じようなことを聞いている気がする。全く同じではないが、伝えることを段取りよく考えるという意味では似ていると思う。
⇒ 発表ということが、手を挙げる発表やみんなの前で改めて発表するみたいなことを子供は捉えていて、今、みんなの前で発表する機会が少し減っている
ので、こういう結果になったと思う。
- ・ 今、国語でやっていることは、普段の生活で生かせることを教師側も意識して
伝えることが大切であると思った。
- ・ 小学校の算数は少し衝撃であった。7月に佐藤先生が言ったことと通じること
があると思う。子供が困ったことを先生が具体的に指摘しないで、ただ子供だ
けにやらせている状況があるのではないかという内容だったと思う。要するに、
そうすると、平均から下の子供たちが分かったつもりになって、放っておかれ
るというような状況があるような気がして、佐藤先生の話を生方先生方に全体に広
げたいと改めて思った。 ⇒ おっしゃるとおり、一生懸命やっている行動だ
けで満足せず、子供たちは何を学んで何につまずいているのかというところ
まで先生たちが鋭く見とって指導に入ることを今後やっていく必要があると思
う。また、デジタルでは体感できないような部分も算数では大事な部分がある
と思うので、印象に残るような体験にして、子供たちに知識を獲得してい
くことを先生たちと確認していくことが必要だと感じている。
- ・ デジタルの良さと弊害が出ていると解釈できると思う。図形の問題もデジタル
を使った方がいろんな角度から見ることができイメージしやすいと単純に思
ったが、この数字を見ると、実物を手で触って共有する作業の方が理解でき
るのかもしれない。授業は好きだと答えているのに、内容が分からないと答える
子が多いことが心配。 ⇒ 先生たち自身が、指導要領をしっかりと読んで、
教科の大事な部分は何なのかということを抑えた教材研究をして授業を組み立
てるということをしてあげないと、楽しく学んでいる子供たちが、意味がある
学びにならない。先生たちの中でも課題意識はあるので、改善していきたい。
- ・ 山型のグラフになっていれば、山の頂上を上位層に持っていけばいいと思うが、
凸凹や2つコブがあるので、まず山を作るという話ではないかと思う。
- ・ 3ページを見て思うが、情報を集めて整理することは得意で、その後に自分の
考えを入れて文章を構成することを苦手としていると思うが、中学校の10ペー
ジの国語の1ー34だと、全国平均よりかなり高い。 ⇒ 指導の特徴が出てい
るのかと思う。国語専門の中学校の先生がしっかり指導している結果と思う。
小学校の方は、子供に委ねている部分が多く、個々に課題を持って動いている
ので、瞬時に何につまずいているのか判断をすることが難しくなっていて、

中学校は一律に授業が展開されていくので指導しやすい環境にあると思う。2 ページの一番上のところに経年変化が書いてあるが、令和6年の中学3年というのは、小学校6年では令和3年。令和3年の時にも国語はプラス0.4で、国語がすごく好きな学年だったかもしれない。

- ・算数や数学が積み上げ式の科目なので、小学校でつまずいてしまうと取り返すことが難しい科目であると思う。⇒ 5年生の結果がこうであったということは、低学年時代にどれだけ定着させたかというところも問われるということ。ICTも上手に活用しながら、手を動かして試行錯誤しながらつくるという体験を並行することも必要だと思う。

オ 令和6年度第1回吉田町部活動の在り方協議会について 資料No.4

(委員からの質疑・意見)

- ・現在の案は、焼津市の地域クラブとかなり類似している。焼津市の地域クラブはいつから始まっていて、中学生はどれぐらいの人数が参加しているか。⇒ 令和3年度からクラブを立ち上げるための委員会を立ち上げて、クラブが出来たのは令和4年度から。最初は、5つぐらい、柔道、剣道、相撲、海洋クラブ等で、現在17に増えたと聞いている。地域クラブ参加者は、全校生徒3,379人中374人
- ・先日の会議で、平日は部活動で教諭が指導して、土日は似たような形の地域クラブで別の指導者が指導するということで、指導が混乱すると意見が出た。移行期はある程度仕方ないと思うが、あと1年あるので、間に合えば、平日も全て地域クラブに移行した方が、分かりやすいと感じた。できるところから一つずつ増やしていくという形にしてもいいのでは。⇒ 例えば、部活動指導員は、学校に部活動があつて部活動指導員が単独でも指導できるような制度で、部活動指導員のような立場で関われる人が増えてくれば、平日も含めてやってくれる体制ができると思う。今ある全ての部活動にそういう方がいるかどうかというところが、今一番大きな課題。あとは予算。受益者負担と言いながらも、どれだけの部員がいるかによって、家庭の経費負担がどうなるのかというところが絡んでくる。
- ・以前、茨城県に視察に行った時に指導主事が管理していた。場所の確保、スケジュール調整やお金の問題も含めてコーディネートする人間がいれば、指導者として採用できるが、そこも大きな課題である。⇒ コーディネーターをつくっていかないと、事務局として回すことができなくなる。4ページに今年の部員の状況が書いてあるが、野球とサッカーの部員数が少なく、3年生が引退と同時に単独チームができないということで、牧之原市と合同チームという形で学校が話を進めている。そうすると、いわゆる地域クラブではなくて、部活動として土日合同チームで練習するという形になっていきそうな気がする

る。それでは、先生の働き方改革にならないのではないかというような意味では、いくつかの学校が集まってきているので、教員全員が必ずいなくてはいけないのではなくて、指導をしてくれるどこかの学校の先生が必ずついている形にすれば、毎回休日に教員が参加しなくても、それが可能になると思う。部によって、若干の違いが出てくる可能性もある。指導者や経費的な問題等、一つ一つの課題を潰していく作業があるが、11月の下旬には新入生の保護者説明会が中学校で行われるので、その時にある程度の方向性というか概要的なものであっても、情報提供をしていく必要があると思っている。そのためには、第2回目の会合が10月ぐらいには開かれて、保護者説明会で伝えられるような内容にまとまっていくと思う。今の状況としては、細かなところまで決まっているわけではなく、基本的な考え方とスケジュールが概ね決まった段階

カ 吉田町立小・中学校処務規程について 資料No.5

(2) 協議事項

ア 教育委員会視察研修について 資料No.6

・事務局説明

(委員からの質疑・意見)

- ・ICTを活用して学力調査の点数が高かったところに行きたい。⇒新聞の見出しではICT活用をしているところほど学力が高いと言っている。
- ・不登校対策や学校に来させるのではなく、その子の学習保障がしっかりできている実例がある学校に行きたい。⇒不登校になってしまった子たちにどういうふうにして手立てをしていくか。教育新聞の特集で、元教育長が民間と連携しながらフリースクールをやっているところがある。どこにもつながっていない子をとにかく減らすために、本町もステップがあって、にじいろが吉中にあって、また様々な相談員の先生方もやっているが、どうにもこうにもつながらない子がいて、そういう子は長期化してしまい、病院などにもつながっていないことがあるので、学校に全てつながることが良しというわけではないが、学校以外のどこかにつながって、どこかがその子を継続的に支援しているということがあるといいと思っていて、そうした場所を選んだ。
- ・気になるのは、日本語支援ステーション。学校でどのように支援しているのか。町や市が住民にどういう支援をしているかを含めて気になるところ。また、チーム担任制のメリット、デメリットはどういうものがあるのか。⇒最近、チーム担任制ということが言われていて、今日届いた教育新聞にも兵庫県にある小学校の事例が載っていて、1、2年生は学級担任制で、3年以降を学年担任制にして教科担任を増やしていきながら、あるいは先生1人と限らず全体で見るという形で、40分授業を午前5時間でやっている取組があった。

- ・ I C Tの学力保障にも興味があるが、 I C Tを使ってドリルを頻繁にやっているということではあまり意味がない。 I C Tを使った学力保障の中身がどんなものなのかは気になる。 ⇒ 基本的に I C Tを効果的に使うことによって学力を高めていくということにつなげていく考え方は当たり前になる。
- ・ 実際に視察ができる内容がいいので、日本語支援ステーションや学びの多様化学校は現場を見られる気はする。 ⇒ 外国籍の児童生徒対応と不登校に絞ったときに、どういう場所で計画が組めそうかを事務局で検討する。

5 その他

- ・ 教育委員報告（オーストラリア（エッジヒル公立学校）訪問：増田委員）
- ・ 令和6年第3回吉田町議会定例会について
- ・ 総合防災訓練に伴う図書館の開館時間について
- ・ ちいさな理科館のパソコンへの不正アクセス事案に係る専門業者による解析調査結果について
- ・ 委員の退任について
- ・ 今後の教育委員会等の予定について

6 閉 会